当たり前でない 特別なもの

る うりでまだ寒いはずだ、と恨み 多少ズレているものらしい。 ど るもののため、 だと言われる。「立春」 えましい べると、中国で生まれた暦によ かく感じられた。 立春も過ぎ、 頬 にあたる光がじんわりと 思いで冷えた空を見上げ 日本の季節とは 暦の上ではもう春 そして改めて について

あたりを見まわしてみれば、

ければ見過ごしてしまいそうな小 けた枝先が見える。 目を凝らさな 春のはじまりが 確かにそこ

ていた「ズレ」

が

ありが

たい

に感じられた。

さな

花が、頭上には初々しい新芽をつ には可愛らしいつぼみをつけた草 足元 たあの頃以上の感謝の思

それは「当たり前」 を要したかを想像すると、 するのにどれだけの労力 とではないことを感じま 親がこの食事を用意 のこ

さとそれが当たり前だっ いつもより豪勢な夕食を 何かのお祝いかのような、 なってからは特別なこと。 は毎日のことだったそれ る実家での食事。 前に感じるのは、 久しぶりに振る舞われ 離れて暮らすように 懐かし かつて はいな ます。 かっ

ものであることもつい いう思いで作ってくれた 毎日のこととなるとそう えるよう作るものですが、 時間をかけて喜んでもら てもらいたくて、 は「おいしい」と思っ 誰 かに料理を振る舞う 手間と 忘

まりが、 にある。 きまで恨みがましい気持ちを抱い 取れる春と同じタイミングだった 春の気配を見つけられなかった としたら、私はこのささやかな かもしれない。 私たちがはっきりと感じ も Ų 暦の上 そう思うと、 の春のはじ さっ

ありがとう

で思いを巡らせて言えて てはいたものの、 「 ごちそうさま_ ありがとう」 もちろん当時もそう言っ そこま

料理 もらうこと、 せてくれたような気がし なことなのだと思い出さ れてしまいがち。 を作ること、 それが特別 作って

> で買い物を たサポー

たように思

じにくくなるものです。 ちで感謝し続けるのは難 ら受けているちょっとし のことではないことを感 のことが本当は当たり前 なるほど、 しいこと。 毎日毎日、 仕事で周りの人たちか 「当たり前」 日常になれば 新鮮な気持

気がします。 間を、私も「 せな瞬間が増えるような じられたらいつもより幸 ではないもの。 特別」な一つ一つの瞬 「当たり前」 特別」と感 ではない

合えたような気がして。 地よさを、 とくすぐっ たいような心 ありがとう」 真っ直ぐにそう言うこ 言われることのちょっ お互いに分け



第314号

発行所 文通村事務局

千葉県成田市

編集

広報部

誰かに

さんの笑顔の挨拶も れをしてくれている つがきっと「当たり トだったり、 を新送手名」だもは を新送手名」だもはが、され風の組む方にはがれて、され風の組む方にはがいてきまりの。 一でそれ風の風にったまでは、の間での、はでの紙取名での紙取名での紙取名での紙取名である。 一でである。 一でである。 一でである。 一でである。 一でである。 一はが、このでは、 一はが、このでは、 ででの、このでは、 ででの、このでは、 ででの、このでは、 ででの、このでは、 ででの、このでは、 ででの、このでは、 のでのでは、 のでいるが、 した時の その 人た 前 _ つ そ 店 2月の発送は、 2月の発送日 お知 らせ まりです。

さ 上ポストに投函してくだ お近くの郵便局で確認 事務局に到着することを 紙がある場合にはそれぞ 予定です。送りたいお手 れ3日前(24日)までに 27 日 の の

今年の目 言葉の冊子 標

とうございました。 りますので、 にたくさんの投稿あり 葉の冊子~今年の目標~ ムページ上への掲載は 毎年恒例イベント「 **15** 日頃を予定してお ぜひご覧く ホ | が 2 言 ちにとっては、